JSET NEWS LETTER
Japan Society for Educational Technology
日本教育工学会ニューズレター NO.256
ISSN 2435-239X

INDEX

副会長挨拶 02
日本教育工学会 2022 年秋季全国大会（第 41 回）の報告 03
日本教育工学会 2023 年春季全国大会のお知らせ（第三報） 07
日本教育工学会研究会　研究会の開催報告 11
日本教育工学会論文誌 特集号 論文募集 (最終報)
「特集 : 現代的教育ニーズと教育実践・教育技術」 12
ショートレター増刊号論文募集のお知らせ（最終報） 14
『大学教員のための FD 研修会（ワークショップ）』開催案内 15
SIG-ID　インストラクショナルデザイン」
『第5回～第6回　定例ゼミ@オンライン』開催報告 17
SIG-ID　インストラクショナルデザイン
『夏合宿 2022』開催報告 18
SIG-ML　メディア・リテラシー，メディア教育
研究会『メディア・リテラシー育成に関する放送局の取り組み』開催案内 19
SIG-TL　教師教育・実践研究
研究会『教師教育者の専門性開発と教師教育者研究を考える』開催案内 19
SIG-CL　協調学習・学習科学
『LS Japan Research Meeting 2023』開催のお知らせ 20
最近の論文投稿数と採択率 21
学会ホームページのリニューアルについて 22
一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 16 回理事会報告 23
一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 17 回理事会報告 24
一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 18 回理事会報告 26
一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 19 回理事会報告 27
2023 年会費納入のお願い 29
2023「研究会参加年間パス」会費（年額 2,000 円）納入について 29
新入会員（2022 年 07 月 06 日～ 2022 年 08 月 09 日） 30
新入会員（2022 年 08 月 10 日～ 2022 年 09 月 01 日） 30
新入会員（2022 年 09 月 02 日～ 2022 年 10 月 04 日） 30

事務局●〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル8階
TEL 03-5549-2263
FAX 03-5575-5366
日本教育工学会ホームページ https://www.jset.gr.jp
e-mail:office@jset.gr.jp

信頼性のある知の共有のために

日本教育工学会　副会長　山内祐平（東京大学）
2022 年 11 月

副会長挨拶シリーズも２巡目の３回目になりました．今回は編集担当の山内が「信頼性のある知の共有のために」と題して，現在編集委員会が抱えている課題とそれに対する対応について説明させていただきます．

日本教育工学会論文誌は，46 年間にわたって教育工学会が生み出した知を集積し共有する役割を果たし続けてきました．累計の掲載論文数も順調に増加しており，編集委員会一同，みなさまの投稿を心待ちにしております．

一方で，研究倫理の厳格化や学会員の多様化などを背景に，掲載に関してトラブルが発生する事案も増えています．残念なことですが，日本教育工学会論文誌においても，昨今不適切な引用による掲載論文の取り消しや，掲載論文の修正に関する厳重注意案件がありました．
編集委員会では，このような問題の防止に関して，以下の３点の対応をとっています．

１）剽窃チェックソフトウェアの導入

2022 年 01 月から剽窃チェックソフトウェアを導入し，投稿された論文全てに剽窃チェックをおこなっています．自分や他者の論文を引用することなく使用していた場合は，デスクリジェクトを含め厳しい対応がなされることになります．

２）学会員に対する普及啓発

2022 年 09 月に開催された秋季全国大会のチュートリアルセッション 3 では，「論文掲載に関するトラブルを避けるためには」と題して，学会員に対してトラブルを防止するための対応などについて情報共有しました．引き続きこのような普及啓発活動を展開していく予定です．

３）著作権規程の整備

2022 年 08 月には，論文誌の著作権規程が整備されました．この規定については，日本教育工学会のウェブサイトからご覧いただくことができます．

https://www.jset.gr.jp/journal/copyright-policy/

この規程では，著作者の責任や著作権侵害排除について明記されるとともに，著作者による第三者著作物の利用，特に評価尺度等の利用についてルールが定められています．また，営利目的で論文等の著作物を利用する場合には，原則として事前に，別に定める著作物利用許諾申請書に従って，学会の許諾を得なければならなくなりましたので，ご注意ください．

論文の作成・投稿にあたっては，この著作権規程とともに，投稿規程 https://www.jset.gr.jp/journal/requirements-for-submissions/ を熟読いただきたいと考えております．特に「科学者の行動規範と不正行為の禁止」についてのセクションには，何が不正行為とみなされるのかがまとめてありますので，必ずお目通しください．

論文に関するトラブルが起きると，著者も社会的制裁などのダメージを受けますし，何よりも学会誌で最も重要な掲載内容に関する信頼性に傷をつけることになります．学会誌に信頼性のある知を共有・集積することは，学会というコミュニティの核になる活動であり，学会員全員が守らなければならない大切な資産です．みなさまのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます．

日本教育工学会 2022 年秋季全国大会（第 41 回）の報告

大会実行委員会委員長　渡辺雄貴（東京理科大学）

2022 年 09 月 10 日（土），11 日（日）に開催された，日本教育工学会 2022 年秋季全国大会（第 41 回）について，報告させていただきます．

今回の大会では，２年ぶりとなる対面開催とオンラインによるハイブリッド型の大会を，川崎市教育委員会との共催として，企画，運営を行いました．最終的な参加登録者数は，一般会員 408 人，学生会員 182 人，非会員 58 人，非会員学生 43 人，関係者 21 人，招待 38 人，名誉会員 1 人の，合計 751 人で，対面参加をされた方は，407 人となりました．

講演論文集の実行委員長挨拶でも触れましたが，ここ数年，COVID-19 の影響により，不要不急の学術的なイベントが中止，もしくはオンライン開催となってしまいました．一方，私たちは，研究活動を「中止」にはしていません．教員，研究者，大学院生，すべての学会構成員が，この数年間，あらゆる工夫の中で研究活動を継続されてきたことは，周知の事実であり，私たちの生み出した知見が，将来の教育工学分野における学術的基盤を支えていくことになると確信しています．しかしながら，私たちに足りなかったものは，その知見をより精緻なものにしていくための議論ではないかと思っていました．秋季大会は予てから「じっくり議論」を合い言葉に企画，運営がなされてきました．この日本教育工学会の風土を，しっかり継承すべく，大会実行委員会，大会企画委員会で議論しながら，当日を迎えました．

その結果，対面発表は 140 件，オンデマンドでの発表は 137 件となり，たくさんの方々の研究成果を，じっくり議論する機会となりました．ポスターセッション会場では，各セッションで，熱い議論がなされていました．

しかしながら，COVID-19 の脅威の中での大会では，参加者の皆さまに，たくさんのご協力を頂きました．ご不便，ご迷惑をおかけしたこともあったと思いますが，多くの皆さまのご協力に支えられ，無事に大会を終了することができました．川崎市教育委員会の皆さま，関係者の皆さま，参加者の皆さまに心から感謝申し上げます．ありがとうございました．

続いて，シンポジウム，チュートリアル，企画セッション，一般発表について各担当者の先生方から，ご報告させていただきます．

シンポジウム１

キーノートでは，安田クリスチーナ氏（マイクロソフト）が「テクノロジーだけでは成し遂げられないこと」と題して講演した．登壇者が専門とされている分散型アイデンティティについて，マイクロソフト米国本社で担当されている規格化の話や国際 NGO で行われているザンビアでの実証実験の話，また登壇者本人のこれまでの取り組みから，これからの日本の教育の在り方について示唆を頂くような講演をしていただいた．シンポジウムでは，「AI 活用・教育データの利活用とその課題」と題して，引き続き登壇の安田氏のほか，パネリストとして，桐生崇氏（文部科学省），緒方広明氏（京都大学），堀口悟郎氏（岡山大学），指定討論者として美馬のゆり氏（公立はこだて未来大学），コーディネータとして村上正行氏（大阪大学）によって討議が進められた．桐生氏は，「教育 DX・教育データ利活用の政策の方向性」と題して報告を行い，政策的な観点から文部科学省の教育 DX 推進体制や教育データの標準化，また文部科学省 CBT システム MEXCBT の状況，最後に教育データ利活用の事例について報告があった．続いて，緒方氏は，「AI と教育データの利活用の研究と実践」と題して報告を行い，教育データの利活用のための情報基盤として LEAF システムの紹介とそれらを用いた主体的・対話的で深い学びの支援，今後の課題と展望について報告があった．堀口氏は，「教育データ利活用と憲法」と題して報告を行い，教育データ利活用に関する憲法上の論点として，プライバシー権，教育を受ける権利，教育の自由の三つの観点から報告を行った．続いて，指定討論者の美馬氏から，AI の倫理やビッグデータ活用の問題について問題提起があり，その後の討論では，美馬氏が示した論点を基に，登壇者間で活発な議論が行われ，AI を巡る科学コミュニケーションや科学リテラシーの重要性などについて話題となった．

文責：石井 雄隆（千葉大学）・村上正行（大阪大学）

シンポジウム２

本シンポジウムでは「先進的な研究と教育実践の開発・成果の普及を両立させるために～ポストGIGAスクール時代の研究を目指して～」と題して，寺嶋浩介氏（大阪教育大学）と古田紫帆氏（大手前大学）がコーディネータを担当され，第１部「GIGAスクール構想の実践的展開に見る教育現場と研究者のパートナーシップ」と第２部「ポストGIGAスクール段階で求められる研究」の２部構成で行われました．

第１部では，パネリストとして三井一希氏（山梨大学），稲木健太郎氏（壬生町教育委員会），山本良太氏（東京大学），石橋純一郎氏（川崎市総合教育センター）が登壇されました．三井氏と稲木氏からは，研究者と実践者のパートナーシップを入り口として，研究者と学校のパートナーシップの構築について話題提供がありました．また，山本氏と石橋氏からは，東京大学・川崎市総合教育センター・内田洋行との共同研究を通した連携について，研究者と自治体とのパートナーシップについて話題提供がありました．

第２部では，重点活動領域委員会での活動とも関連付けられ，パネリストとして，深見俊崇（島根大学／学習評価部会），森下孟（信州大学／情報教育部会），三井一希（山梨大学／学習環境部会）が登壇されました．第１部で議論された現在地の議論を踏まえ，第２部では今後の研究について，それぞれの視点から議論がなされました．

最後に，第１部の内容も踏まえて，オンラインのアンケートツールで参加者から寄せていただいた質問にも答えながら，第１部と第２部の全体をコーディネータの寺嶋氏と古田氏から整理されました．

本シンポジウムは，現地での開催に加え，YouTube Liveでの配信も行われ，現地では約100名の参加，YouTube Liveでは約150名の視聴があり，合わせて250名の方々にお聞きいただきました．本学会の会員だけでなく，開催地の川崎市の皆様をはじめとする多くの皆様にとって，今後の取り組みのヒントとなることが期待されるシンポジウムとなりました．

文責：板垣翔大（宮城教育大学）

チュートリアル

今年度のチュートリアルセッションは，会場での対面参加ならびにZoomによるオンライン参加のハイブリッド型で実施され，いずれのセッションにおいても対面・オンラインともそれぞれ 100 名近い参加を得ての開催となった．

セッション１は，「JSETへようこそ！ 全国大会を楽しむ方法を教えます」（09月09日（土）09:30～）と題し，2022年度秋大会の最初のプログラムとしてスタートした．まず本学会会長である堀田龍也先生（東北大学）から本学会での研究活動の概要や教育工学についての解説があり，学会活動への積極的な参加の促しがあった．続いて，学会副会長（会員サービス担当）である村上正行先生（大阪大学）からは，ハイブリッド型での開催となった本大会の各プログラムの楽しみ方が紹介された．

大会二日目，午前最初のプログラムとして開催されたセッション２では，「論文賞受賞者に聞く，査読対応の極意」（09月11日（日）09:30～）と題し，大会企画委員会と編集委員会の共同にて開催された．本セッションでは，大浦弘樹先生（東京理科大学）が本学会の論文賞受賞経験者として，瀬戸崎典夫先生（長崎大学）が聴き手として登壇され，対話方式にて，投稿論文の査読対応における考え方や工夫のコツについて紹介された．瀬戸崎先生からの「複数の採録条件があるときにどのような順序で対応していったのか？」や「論文執筆の段階で査読を意識しているのか？」などの問いに対して，大浦先生は事例を交えながら回答され，これから論文投稿をする聴講者には大いに参考となる情報が提供された．

セッション３は，「論文掲載に関するトラブルを避けるためには」（09月11日（日）13:40～）と題し，セッション２と同様に大会企画委員会と編集委員会の共同にて開催された．まず編集委員会編集長である山内祐平先生（東京大学）から，本セッションが「不適切な引用による掲載論文の取り消し」などの論文掲載に関するトラブルを未然に防ごう，という主旨のもと企画されていることについて説明があり，次に副編集長である小柳和喜雄先生（関西大学）から，実際にあった論文掲載取消案件についての解説があった．続いて，編集委員会担当理事である望月俊男先生（専修大学）からは，実例を挙げ，

これまでにあった厳重注意案件における学会の対応内容などについて解説があり，「研究の過程での分析手続きやデータを残すこと」「共著者との確認作業を徹底すること」など，研究者として取り組むべきことが提示された．最後に山内先生より，編集委員会における直近の取り組みとして，剽窃チェックソフトウェアの導入，啓発活動，著作権規程の整備について紹介があった．

いずれのセッションも，本学会会員，特に若手会員や年数の浅い会員にとって，今後の研究活動，学会活動において有益な情報を得られる機会となった．

文責：中嶌康二（関西国際大学）

企画セッション

09 月 10 日（土）と 11 日（日）に，重点活動領域委員会，NHK（日本放送協会），そしてラインズ株式会社が企画した３つのセッションが行われました．

企画セッション１では，重点活動領域委員会委員長の瀬戸崎典夫氏（長崎大学）が，日本教育工学会における重点活動領域の設立経緯，目的について説明しました．また，情報教育部会長の寺嶋浩介氏（大阪教育大学），学習環境部会長の稲垣忠氏（東北学院大学），学習評価部会長の深見俊崇氏（島根大学）の司会のもと，各部会の活動状況の進捗が報告されました．情報教育部会からは，情報教育に関する研究動向や今後の指針に加えて，教員養成課程の大学生を対象に実施した予備調査の結果が報告されました．学習環境部会からは，部会として手掛かりとする学習環境のフレームワークが示されるとともに，部会のコアメンバーが注目する学習環境に関する研究レビューが紹介されました．そして学習評価部会からは，2022 年度に開催した３つの研究会の取り組みが報告されるとともに，今後の展開について説明されました．最後に，質疑応答の時間を設け，本活動の目的や内容について議論しました．

企画セッション２・３（１）では，NHK（日本放送協会）が３回に分けて開催しました．１人１台端末環境で作業できる各種学習支援ツールに対応し，思考ツールなども活用した作業シートや，その中で動かしたり並べたりする素材を提供し，デジタルワークシートの作成をサポートしました．児童への配布シートに NHK for School の動画を貼り付け，簡単に動画へ移動する場面を体験しました．これらの「考えるやるキット・理科」の授業プランを用いた模擬授業も行いました．初めて「考えるやるキット・理科」を操作する人を対象に，利用するためのノウハウを伝えました．

企画セッション２・３（２）では，ラインズ株式会社が，「オンラインでの基礎学力強化・入学前教育・就職筆記試験対策とテストの Web 化」をテーマとし，２回開催しました．５教科のリメディアル教育用サービス「ラインズドリル」，就職筆記試験対策用サービス「ラインズ SPI」，大学独自のテストを Web 上で実施可能とするサービス，学生の読解力強化のための「読解スキル養成ドリル」，情報リテラシーの習得の度合いを確認することのできる「情報リテラシー確認ドリル」の使い方を，事例を交えて紹介しました．参加者はこれらの教材を体験し，意見交換を活発に行いました．

文責：瀬戸崎典夫（長崎大学）
小林由昭　（株式会社内田洋行）
宇多清二　（株式会社内田洋行）
坂本將暢　（名古屋大学）

一般発表

一般発表では，合計 277 件の発表を対面発表とオンデマンド発表の２種類の形式で実施しました．対面発表では，会場である「カルッツかわさき」において合計 140 件のポスター発表を２日間（両日 70 件ずつ）にわたって開催しました．新型コロナウイルス感染症対策として，ポスター会場内のパネル同士の間隔を広めに設置したため，ポスター発表会場を２カ所（大会議室およびアクトスタジオ）に分け，スペースに余裕を持たせた上での開催でした．さらに，発表者がポスター前で発表に従事する時間（コアタイム）を前半後半に分けることで発表者同士の距離を広くとるという工夫を取り入れました．通常とは異なる方法で開催したポスター発表でしたが大きなトラブルもなく，活発な議論が多く展開されていた様子でした．皆様のご協力のおかげで，久々の対面による発表を JSET 全国大会で行うことができたことに改めて感謝申し上げます．

オンデマンド発表では，合計 137 件のポスター発表がありました．今回のオンデマンド発表は，PDF 形式のポスターのファイル・発表動画の URL・オンラインディスカッションの URL を，参加者専用サイトで共有するという形式で開催しました．上記のデータを共有する際に，オンラインディスカッションの書き込み権限の設定がうまく行かなかったなどの事例が数件ありましたが，発表者の迅速なご対応により全てのオンデマンド発表が滞りなく行われました．

今回の一般発表では，事前に発表者に対面発表とオンデマンド発表の希望をとった上でプログラムを編成しました．しかし，新型コロナウイルス感染症対策による対面発表件数の上限があったことから，発表者全員の発表形式に関する希望に沿うことができませんでした．改めまして，この場を借りてお詫び申し上げますとともに，発表者のみなさまのご協力に感謝申し上げます．

文責：倉田伸（長崎大学）・福山佑樹（関西学院大学）

日本教育工学会 2023 年春季全国大会のお知らせ（第三報）

日本教育工学会 2023 年春季全国大会を下記のように東京学芸大学において開催します．多くの方々のご参加をお待ちしています．また研究発表にもふるってご応募下さい．最新情報は https://www.jset.gr.jp/taikai42/ に順次掲載致しますのでご確認ください．

1. 開催期日・会場

・期日：2023 年 03 月 25 日（土）～ 03 月 26 日（日）（２日間の開催となります）
・会場：東京学芸大学　〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
https://www.u-gakugei.ac.jp/

2. 会場へのアクセス https://www.u-gakugei.ac.jp/access/

・JR 武蔵小金井駅・北口より
【京王バス】〔５番バス停〕「小平団地」もしくは「国分寺駅北口」行に乗車，約 10 分．
「学芸大正門」下車
【徒歩】約 25 分
・JR 国分寺駅・北口より
【京王バス】〔５番バス停〕「武蔵小金井駅北口」行に乗車，約 10 分．「学芸大正門」下車
※本数が少ないため，ご注意ください．
【徒歩】約 20 分

・開催当日は正門をご利用ください（土日祝日は，北門，東門が施錠されている場合がございます）
・交通機関をご利用いただき，車での御来校はご遠慮ください．

3. 大会までのスケジュール

【発表者のスケジュール】
・発表（参加）申込受付期間　：11 月 25 日（金）～01 月 13 日（金）17:00（～02 月 17 日（金）17:00）
・発表原稿（２頁）締め切り：01 月 13 日（金）17:00
・参加費送金締め切り　　：02 月 17 日（金）17:00
・プログラム決定・通知　　：02 月上旬
・2023 年春季全国大会講演論文集のダウンロード開始：03 月 17 日（金）

※発表者が発表するにあたっては，参加申し込みと発表申し込みを個別に行っていただく必要があります．発表申し込み受付期間中に，発表申し込みと原稿提出を行った上で，参加費送金締め切りまでに参加申し込みも行ってください．

【参加者（発表者以外）のスケジュール】
・参加申込受付期間　　：11 月 25 日（金）～
・参加費送金（早割り価格）締め切り：11 月 25 日（金）～03 月 17 日（金）17:00
・参加費送金（一般価格）締め切り　：03 月 17 日（金）17:00～03 月 26 日（日）

【自主企画セッション申込スケジュール】
今大会でも自主企画セッションを公募にて実施します．詳細は決定次第お知らせします．
・公募締め切り：12 月 16 日（金）17:00
・採否の通知　：12 月 23 日（金）

4. 大会当日のスケジュール

03 月 25 日（土）	03 月 26 日（日）
08:45～09:15 チュートリアルセッション	
9:20～10:50 研究発表／会員アンケート報告セッション 11:00～12:30 研究発表／自主企画セッション ／重点活動領域セッション	09:00～10:30 研究発表 10:40～12:10 研究発表／自主企画セッション
昼休み	昼休み
13:30～15:10 研究発表／自主企画セッション ／重点活動領域セッション 15:30～17:30 研究発表/重点活動領域セッション	13:00～13:50 代議員総会 14:00～14:10 全体会 14:10～14:30 SIG セッション 14:40～16:40 シンポジウム
18:00～20:00 懇親会(オンライン開催予定)	16:40～17:00 クロージングセレモニー

※一般研究時発表　発表時間：20 分（プレゼンテーション 14 分，質疑応答 5 分，交代 1 分）

5. 今大会における注意点

（1）オンライン開催の可能性

2023 年春季全国大会については，現状では対面実施の方針です．ただし，新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては，政府・自治体の方針や開催校内の規定などに基づき，ハイブリッドまたはオンライン開催となる可能性があります．

（2）講演論文集等について

・講演論文集はオンライン配信に一本化し，USB での配布を致しません．あらかじめダウンロードの上，ご参加下さい．
・USB での講演論文集をご希望の方は，1 つ 4,000 円で販売しますので，受付窓口にてお求めください．冊子版の販売はございません．オンライン開催となった場合は郵送致します．
・当日受付時に，プログラム冊子をお渡しする予定です．オンライン開催となった場合は事前申し込み済みの方には大会前日までに郵送，当日申込の方には後日，発送致します．別途，購入を希望される方には購入方法をご案内致します．

（3）セッション・企画について

・本春季全国大会の一般研究発表は，口頭発表のみです．発表テーマのカテゴリーは決定次第お知らせいたします．

・研究発表の枠では，一般研究発表と学生セッション，インターナショナルセッションを口頭発表にて開催します．

・学生セッションでは，発表者と参加者が深く議論できるよう，通常の研究発表の後，セッション内でディスカッションの時間（20 分間）を設けます．また，学生セッション独自の表彰制度の新設も予定しております．詳細については決定次第 Web サイトでお知らせします．

・研究発表とは別に重点活動領域セッションおよび自主企画セッションを開催します．

　・重点活動領域セッションは，学会として重点的に取り組んでいる領域を社会に示し，学会としてのプレゼンスを高め，社会貢献に寄与することを目指して設置された３つの部会（情報教育部会，学習環境部会，学習評価部会）の活動についてのセッションになります．

　・自主企画セッションは，教育工学研究に関する外部研究費（科研費や JST による研究費などの公的外部研究費や財団による研究支援）による研究成果を公開することを目的としたセッションを公募します．詳細は，決定次第お知らせします．

（4）シンポジウムについて

大会２日目の午後にはシンポジウム「１人１台端末時代における教育工学研究の役割（仮）」が開催されます．詳細が決まり次第，Web ページ，ニューズレターにてお知らせ致します．

概要：

文部科学省の「GIGA スクール構想」により，児童・生徒１人１台端末及び高速ネットワークの整備が進められている．また，それに伴いデジタル教材，授業支援システム，クラウド，教育データなどの活用も行われている．コロナ禍の状況も後押しして急激に普及が進んだことによる混乱がある一方で，多様な教科・領域における学習活動で活用され，これまで実現できなかったような教育実践も見受けられるようになった．そうした実践に関する研究知見は個別に示されるようになってきてはいるが，それを超えて，教育工学研究における理論的・実践的な研究への位置付けや発展可能性を議論することも重要だといえる．そこで，本シンポジウムでは，政策・研究・実践などに関わる多様な立場から，現在の取り組みで得られた知見を共有し，これからの時代において期待される教育工学研究の役割について議論する．

（5）参加費について

・参加費は，オンライン配信の講演論文集およびプログラム冊子を含んだ価格となります．

・参加費の詳細は決定次第，Web ページやニューズレターにてお知らせします．

・事前（早割）支払期限以降に送金された場合は，一般（当日）参加の場合との差額をお支払いいただきます．事前（早割）支払期限までに発表者の参加費ならびに，上述差額についての納入が確認できない場合は，発表取り消しとなりますので，ご注意下さい．

・お支払い後，2023 年 03 月 21 日（火）までのキャンセルについては，春大会企画委員会（s-taikai2023@jset.gr.jp）までご連絡下さい．支払い済みの参加費については次年度の年会費に振り替えることができますが，**返金自体はできません**．また，非会員の方がキャンセルされる場合は入会をしていただくことになります．2023 年 03 月 21 日（火）以降は，ご連絡いただいても，原則として振り替え等ができないことをご了承下さい．

・卒業見込み年月が過ぎた学生会員で継続の連絡がない場合は，「准会員」に会員種別が変更されています．学生会員としての特典はありませんので，ご注意下さい．

・事前（早割）の送金と参加登録について

　発表申し込み，事前参加申し込みのシステム（11 月 19 日オープン予定)には，大会 Web サイト（ https://www.jset.gr.jp/taikai42/index.html ） からアクセスして下さい．支払い方法は，「①クレジットカード」「②払込・振替」の２つから選択できます．

　①クレジットカードによる支払い

　　申し込み後に，クレジットカードの情報を入力する画面に進めます．

②振込・振替

申し込み時に表示される金額と送金内容を，郵便局に備え付けの払込取扱票に記入して，郵便局の窓口から送金して下さい．必ず会員番号をご記入下さい．

（6）託児サービスについて

・本大会では，大会期間中に託児室を以下のとおり，設置する予定です．
託児室には保育スタッフが常駐します．ご利用いただくには事前にお申込みが必要です．
詳細は決定次第，大会 Web サイトでお知らせします．
・開設日時：2023 年 03 月 25 日（土）8:30～18:00，2023 年 03 月 26 日（日）08:45～17:30
・対象:生後 6 ヶ月から小学生まで
・利用料金:無料
※定員に達した場合は受付終了となります

6. 大会運営組織

春季大会企画委員会

委員長	森田裕介	（早稲田大学）
副委員長	松河秀哉	（東北大学）
	北澤武	（東京学芸大学）
幹事	川面きよ	（成城大学）
	今野貴之	（明星大学）
委員（五十音順）	石川奈保子	（北海道大学）
	遠海友紀	（東北学院大学）
	大山牧子	（大阪大学）
	小林由昭	（内田洋行）
	竹中喜一	（愛媛大学）
	辻宏子	（明治学院大学）
	長濱澄	（東北大学）
担当副会長	村上正行	（大阪大学）

春季大会実行委員会

実行委員長	森本康彦	（東京学芸大学）
実行副委員長	高橋純	（東京学芸大学）
	北澤武	（東京学芸大学）
委員（五十音順）	大村龍太郎	（東京学芸大学）
	加藤直樹	（東京学芸大学）
	小池翔太	（東京学芸大学附属小金井小学校）
	中村純子	（東京学芸大学）
	登本洋子	（東京学芸大学）
	櫨山淳雄	（東京学芸大学）
	宮寺庸造	（東京学芸大学）
	和田正人	（東京学芸大学）

日本教育工学会研究会　https://www.jset.gr.jp/study-group/

研究会の開催報告　テーマ：高等教育における学習支援／一般

●日時：2022 年 10 月 08 日
●会場：関西学院大学　上ケ原キャンパス
●発表件数：33 件（内非会員 8 件）
●参加者数：91 名（内非会員 23 名），来場者数 65 名・オンライン参加者数 26 名

今回の研究会では，「高等教育における学習支援」をメインテーマに実施し，一般発表と合わせて 33 件の発表がありました．前回に続き，発表者は現地参加，聴講のみの方はテレビ会議（Zoom）によるオンラインでの参加も可能とした 2 度目のハイブリッド型の研究会となりました．当日はオンラインからの参加を含め，91 名の方にご参加いただき，活発な議論が行われました．また，セッション終了後の会場では，発表者と参加者の方々が意見交換を行う様子もあり，交流の場となりました．

感染症対策を講じながらの開催につき，現地参加の皆様には様々な面でご不便をおかけしました．また，オンライン配信においては，十分な配信環境を整えることができず，発表者の声が聞き取りづらかったり，スライドが見えにくかったりした点もあったかと思いますが，皆様のご協力により無事に終えることができました．研究会にご参加いただきました皆様，開催にあたりご支援・ご協力いただきました関係の皆様に深く御礼申し上げます．

担当：西口啓太（関西学院大学）

新型コロナウイルス感染症に関する研究会の対応について

2022 年度 12 月以降の研究会についても現地開催として準備をすすめておりますが，「新型コロナウイルス感染症に関する本学会の対応について」（2020 年 04 月 02 日公表）に従い，感染拡大状況に応じて，研究会の現地開催を中止しオンライン開催とする場合があります．中止の場合は，随時本学会ホームページに掲載いたします．イベント前に，必ず本学会ホームページをご確認ください．また，2022 年度の研究会は現地開催の様子のライブ配信を試行しております．視聴方法等は研究会ごとに異なる可能性もありますので，事前に研究会 HP のご案内をご参照ください．

研究会の運営について

研究会報告集の冊子体の廃止および J-STAGE でのオープンアクセス化に伴い，研究報告集代や年間購読制度は廃止し「参加費」「発表費」を以下のように設定することになりました（2021 年 02 年 03 日告知）．

●参加費：a か b のいずれかが必要です．
（a）1000 円／1 回（会員・非会員共通）
（b）2000 円／年間 4 回「研究会参加年間パス」制度（会員のみ）
※年間パスについて：当該年度内の 4 回の研究会のすべてに参加可能になります．年度当初に年会費などとともに会員専用ページなどで支払いをしていただく必要があります．なお，2022 年度の年間パスの申し込みは 04 月 30 日で締め切りました．
※連名の発表において，当日参加されない著者の方の参加料は不要です．
●発表費：参加費に加えて，発表者には以下の発表料をお支払いいただきます．
（会員）1000 円／1 回　（非会員）2000 円／1 回
※連名発表の場合，第一著者が発表費をお支払いください．発表費は，第一著者が会員または非会員であるかに応じて決まり，発表 1 件につき 1 名分の支払いとなります．連名者は発表費の支払いの必要はありません．一方，参加費は当日参加される人すべてにお支払いいただきます．

日本教育工学会論文誌 特集号 論文募集（最終報）
「特集：現代的教育ニーズと教育実践・教育技術」

変化が激しく，先行きを見通すことが難しい現代では教育に対する社会的ニーズが変化しています．初等中等教育では，自分のよさや可能性を認識し，あらゆる他者を尊重し，協働しながら，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となるための資質・能力（社会情動的スキルや自己調整能力等を含む）の育成が求められています．高等教育においても，学修者本位の教育の実現を目指した実践や教育課程の改善が進められています．また，特別な支援を要する学習者，日本語を母語としない学習者，貧困，不登校など，学習者の状況は多様化しています．GIGA スクール構想で整備された１人１台のコンピュータ，BYOD/BYAD，クラウドや高速ネットワーク等の学習環境の刷新は，こうした教育環境の変化に対応した活用が期待されています．そして，個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実，授業内外の学びの連携，学習履歴の活用等，新たな教育技術の開発が試みられています．今回の特集号では，変化しつつある教育に対する社会的ニーズに対応した，資質・能力の育成を目指した教育実践や，刷新された学習環境に対応した教育技術の開発，検証に関する知見を幅広く募集します．

1. 対象分野

本特集号で募集する論文テーマの例を示します．初等中等教育及び高等教育双方における教育実践や教育技術に関するリサーチクエスチョンを歓迎します．

（1）個別最適な学び，協働的な学びに関する教育実践・教育技術
（2）社会情動的スキルや自己調整能力などの資質・能力育成に関する教育実践・教育技術
（3）授業と授業外の学習を関連づけた教育実践（反転授業等）
（4）１人１台環境，クラウド等を使用し，新たな教育ニーズに対応した教育実践
（5）教育ニーズの変化，ICT 環境の刷新等を受けた学習環境の構築・検証
（6）e ポートフォリオ等，学習者個別の学習履歴の蓄積，可視化に関する研究
（7）児童生徒の多様な学習環境の保障に関する教育実践・教育技術

2. 募集論文の種類

通常の論文誌と同様に，「論文」「システム開発論文」「教育実践研究論文」「資料」「寄書」を募集します．それぞれの論文種別については，投稿規定をご覧下さい．論文の査読は，通常の論文誌の場合と同じです．ただし，査読は２回限りとし，編集委員会が示した掲載の条件を修正原稿で満たさない場合は採録になりません．「ショートレター」として既に掲載されている内容を発展させて「論文」として投稿することも可能ですが，単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんのでご注意下さい．なお，本特集号へ投稿された論文が特集号編集委員会にて対象分野外と判断された場合には，一般論文として扱うことになります．あらかじめご了承下さい．

3. 論文投稿締め切り日（2023 年 11 月発行予定）

論文投稿（電子投稿による）の締切は 2023 年 02 月 10 日（金）17 時，最終原稿提出締め切りは同じく 02 月 17 日（金） 17 時です．

4. 論文投稿の仕方

原稿は，「執筆の手引」（ https://www.jset.gr.jp/journal/instructions-for-authors/ ）に従って執筆し，学会ホームページの会員専用 Web サイトから電子投稿して下さい．郵送による投稿は受け付けておりません．

5. 問い合せ先

日本教育工学会事務局 tokushu2023@jset.gr.jp

6. 特集号編集委員会

特集号編集委員長	稲垣　忠（東北学院大学）	
特集号副編集委員長	山森光陽（国立教育政策研究所）	
特集号幹事	瀬戸崎典夫（長崎大学）	伏木田稚子（東京都立大学）
委員（50 音順）		
	伊藤貴昭　（明治大学）	岩﨑千晶　（関西大学）
	岡田　涼　（香川大学）	小山義徳　（千葉大学）
	河野麻沙美　（上越教育大学）	佐藤和紀　（信州大学）
	重田勝介　（北海道大学）	泰山　裕　（鳴門教育大学）
	深谷達史　（広島大学）	今野貴之　（明星大学）
	益川弘如　（聖心女子大学）	町　岳　（静岡大学）
	棟方哲弥　（国立特別支援教育総合研究所）	
	森本康彦　（東京学芸大学）	山本朋弘　（中村学園大学）

ショートレター増刊号論文募集のお知らせ（最終報）

日本教育工学会論文誌 vol.47 Suppl.の発行
論文受付締切：2023 年 04 月 01 日（金）17:00

日本教育工学会論文誌 vol.47, Suppl.は，年１回発行されるショートレターの増刊号です．

奮ってご投稿下さい．

投稿規定に明記していますが，以下の点を投稿にあたってご注意下さい．

1. ショートレターは，教育工学に関する，実践的な研究成果，新しい試みやその結果等，教育システム開発等を記述したもの．新規性（オリジナリティ）は必ずしも高くなくても，実践研究の方法と成果を明確に記述したものです．
2. 刷り上がり４ページ厳守です．（４ページを超えるものは採録しない）
3. 筆頭著者（ファースト・オーサー）は本学会会員であることが条件です．あるいは，筆頭著者が投稿時に入会手続きおよび会費納入等をすることが必要です．なお，各会員はショートレターを年１編に限り投稿できます．
4. 2023 年 12 月に発刊の予定です

ショートレターの内容については，例えば，以下のような内容が考えられます．

- 全国大会や研究会で発表した内容をまとめたもの
- 教育システム開発や教育実践をベースにした実践と知見をまとめたもの
- 教育工学研究としての速報的な内容
- 卒業論文や修士論文等としてまとめた内容など

なお，ショートレターとして掲載されたものを一層充実させて，論文あるいは資料としての条件を満たすように記述したものは，論文あるいは資料に投稿できます．

ページ数が限られていることから，タイトル，著者，内容については十分厳選の上，ご執筆下さい．

特に，ショートレターの趣旨から，多人数の連名著者はさけて下さい．研究全体がプロジェクトチームによる共同研究であっても，実際にショートレターの限られた内容に直接携わり，執筆した研究者にして下さい．

ショートレターの査読日程予定
（2023 年度）
04 月 担当及び査読者の指名
05 月 編集委員会で査読進捗状況の確認
07 月 編集委員会で採録，返戻の第１回決定
09 月 編集委員会で採録，返戻の第２回決定
10 月 最終原稿の提出
11 月 著者校正
12 月 ショートレター増刊号発行予定

投稿の仕方：

原稿は，「投稿規程」と「原稿執筆の手引」（ https://www.jset.gr.jp/journal/requirements-for-submissions/ ）（ https://www.jset.gr.jp/journal/instructions-for-authors/ ）に従って執筆し，学会ホームページの会員専用 Web サイトより電子投稿して下さい．会員の ID とパスワードが必要です．投稿論文は電子投稿でのみ受け付けています．

問い合わせ先：

日本教育工学会事務局
電子メール：short@jset.gr.jp
Tel：03-5549-2263

『大学教員のための FD 研修会（ワークショップ）』開催案内

2022 年 12 月 17 日（土）に日本教育工学会企画「大学教員のための FD 研修会（ワークショップ）」を開催いたします．

本研修会は，日本教育工学会がこれまでの知見を活用し，大学教育の授業改善や教員の授業力向上へ寄与することを目的として，2008 年度から実施されているものです．修了要件を満たした方には学会より認定書を発行し，本研修を修了したことを証明します．みなさまのご参加をお待ちしております．

【FD 研修】
・テーマ：「大学授業デザインの方法－1 コマの授業からシラバスまでー」
・対象：高等教育機関の教員（非常勤講師も含む），高等教育機関の教員を目指す学生の方
※高等教育機関で授業を行う予定のない方のお申し込みはご遠慮ください．
・内容：
参加者それぞれが授業実践事例を持ち寄り，ワークショップ形式で行います．
授業のデザインに関する問題意識の明確化，授業のデザインに関する情報・課題の共有などから議論を始め，「何を誰に教えようとしているのか」，「どんな方法で教えるのか」，「続けたい点・変えたい点は何か」などをグループで議論しながら授業の改善案を考えていきます．
なお，本ワークショップは，e ラーニング（事前学習）と対面研修を組み合わせた反転研修で開催いたします．

・スケジュール：

2022 年 11 月 17 日（木）～2022 年 12 月 16 日（金）	事前課題（Moodle）
2022 年 12 月 17 日（土）13:00～17:50	ワークショップ
2022 年 12 月 18 日（日）～2023 年 1 月 31 日（火）	事後課題（Moodle）

※留意点
高等教育機関において授業を実践している方は，自分の授業のシラバス，授業資料（スライド，レジュメ，板書ノートなど）をご用意いただきます．また学生など，今後高等教育機関で授業を実施する予定の方は，実施することを想定した授業デザインに関する資料をご用意ください．詳細については，申込後にご案内いたします．なお，シラバス・授業資料等は LMS などで他の受講者と共有することをご了承ください．

・会場：青山学院大学 相模原キャンパス（神奈川県相模原市）※詳細は別途ご案内します
JR 横浜線 淵野辺駅から徒歩 7 分
https://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/sagamihara.html
・定員：20 名（定員になり次第，締め切り）
※感染症拡大防止対策のため，人数を制限して実施いたします
・参加費：2,000 円（学会員），3,000 円（学会員以外）
・認定書：研修会終了後に最終レポートを提出し，合格した修了生には，日本教育工学会から認定書が授与されます．

・申し込み：
※申込期日 2022 年 11 月 30 日（水）
＜会員用＞
会員専用ページ「入金確認・支払」より（「事前申込項目」から「2022 年度　大学教員のための FD 研修会」を選択して支払いに進んでください）
https://www.jset.gr.jp/pg/member_s/login.php

＜非会員用＞
https://www.jset.gr.jp/collection/index.php

【企画者等】

- 企画：日本教育工学会
- コーディネータ：
  市川尚（岩手県立大学）・岩﨑千晶（関西大学）・遠海友紀（東北学院大学）
  甲斐晶子（青山学院大学）・勝又あずさ（成城大学）・嶋田みのり（東北学院大学）
  杉浦真由美（北海道大学）・高橋暁子（千葉工業大学）・千葉美保子（甲南大学）
  根本淳子（明治学院大学）・松河秀哉（東北大学）・宮川幹平（東海大学）
  村上正行（大阪大学）・森幹彦（法政大学）・渡辺雄貴（東京理科大学）
- 認定ファシリテーター：
  淺田義和（自治医科大学）・久保田真弓（関西大学）・小林雄志（東京大学）
  竹岡篤永（新潟大学）
- 監修：鈴木克明（熊本大学・日本教育工学会監事）
- 幹事：甲斐晶子（青山学院大学）・杉浦真由美（北海道大学）

【お問合せ先】
甲斐晶子　E-mail: fd-staff@jset.gr.jp

SIG-ID　インストラクショナルデザイン

『第５回～第６回　定例ゼミ＠オンライン』開催報告

●第５回：2022 年 06 月 22 日　13:00～14:00
●参加者数：９名
●テーマ：授業形態のタキソノミー

紹介した論文：

Bhavik K. Pathak & Shailendra C. Palvia (2021) Taxonomy of higher education delivery modes: a conceptual framework. Journal of Information Technology Case and Application Research, Vol. 23, 36-45

コロナ禍での授業のオンライン化の波を経て，対面やオンライン，ハイブリッド等の多様な授業形態が混在して展開されています．それらを俯瞰的に整理するひとつの手がかりとして，授業形態の分類を試みた文献を取り上げ，議論しました．文献では，米国の大学教育事情やコロナ前のオンライン教育を概観するとともに，2020 年春以降に急速に普及したオンライン同期型の授業形態を含めたマトリックスが提示されていました．

参加者からは，教室での対面授業とオンライン同期型授業が１つのカテゴリに分類されているのが興味深いという意見が出ました．また，オンライン非同期が効果の面で最も低く位置づけられていることについて，オンライン非同期ならではの数々のメリットが挙げられました．ポストコロナに向けた授業形態の模索が続くなか，各授業形態の可能性を考えるよい機会となりました．

文責：阿部真由美（早稲田大学）

●第６回：2022 年 07 月 27 日　13:00～14:00
●参加者数：９名
●テーマ：動機付けとエンゲージメント

紹介した文献：

Brett D. Jones (2020) Motivating and engaging students using educational technologies. In M.J. Bishop, Elizabeth Boling, Jan Elen & Vanessa Svihla (Eds.), Handbook of Research in Educational Communications and Technology (Fifth edition), pp. 9-35, Springer.

AECT の教育工学ハンドブック第５版より，動機付け（Motivation）とエンゲージメント（Engagement）の研究動向が整理されている章を取り上げました．評価の動向については，自己報告，行動測定，他者評価，生理学的データの４つの手法が提示され，動機付けとエンゲージメントの双方を高めることを考えるモデルとして，Jones による MUSIC モデルが紹介されていました．MUSIC モデルは，エンパワーメント（eMpowerment），有用性（Usefulness），成功（Success），関心（Interest），ケアリング（Caring）の５つの方略から構成されています．

当日は，ARCS モデルとの違いなどが話題になり，MUSIC モデルは特にケアリング方略が特徴的と言えるのではないか，などの議論がなされました．

文責：市川尚（岩手県立大学）

レジメなどの詳細は，SIG-ID の Web サイト（ https://sites.google.com/view/jset-sig-id ）に掲載します．ID にご興味ある方はお気軽にご参加ください．

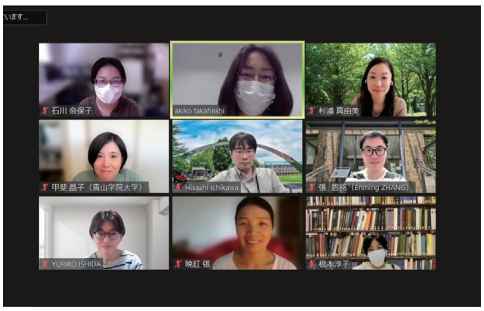
SIG-ID　インストラクショナルデザイン

『夏合宿 2022』開催報告

●日時：2022 年 09 月 05 日（月）09：50～17：15，09 月 06 日（火）10：00～13：00
●会場：岩手県立大学アイーナキャンパス（岩手県盛岡市盛岡駅西通 1 丁目 7－1）
　　＆ オンライン（Zoom）
●参加者数：13 名（対面 3 名，オンライン 10 名）
●プログラム：

日にち	時間	内容	担当者
09 月 05 日	09：50～10：00	開会挨拶・趣旨説明など	高橋暁子
	10：00～10：30	第 1 章	阿部真由美
	10：30～11：00	第 2 章	杉浦真由美
	11：00～11：30	第 3 章	張恩銘
	11：30～12：00	第 4 章	高橋暁子
	12：00～13：00	休憩	
	13：00～15：00	講演会『教育システム開発研究の成果を社会に還元するために』丸山美紀氏	甲斐晶子（司会）
	15：00～15：15	休憩	
	15：15～15：45	第 5 章	根本淳子
	15：45～16：15	第 6 章	石川奈保子
	16：15～16：45	第 7 章	高橋司
	16：45～17：15	第 8 章	市村由紀
09 月 06 日	10：00～10：30	第 9 章	石田百合子
	10：30～11：00	第 10 章	張暁紅
	11：00～11：30	第 11 章	甲斐晶子
	11：30～12：00	第 12 章	市川尚
	12：00～13：00	ラップアップ	全員

SIG-ID（インストラクショナルデザイン：Instructional Design）では，２日間にわたって輪読会「夏合宿 2022」を行いました．今回の対象書籍は，『Merging the Instructional Design Process with Learner-Centered Theory: The Holistic 4D Model』（Charles M. Reigeluth & Yunjo An 著，2020）でした．1 日目午後には，丸山美紀氏（キューベリー株式会社）による講演会『教育システム開発研究の成果を社会に還元するために』も開催されました．



輪読会では，1 章あたり 30 分で，担当者による概要の発表と参加者全員でのディスカッションを行いました．The Holistic 4D Model では，学習者中心の教育を実現するための４つの D（Define，Design，Develop，Deploy）の各段階，Design 段階における３つのレベル（Top，Mid，Lower）でのデザインプロセスが紹介されていました．発表とディスカッションによって，各自が担当章で感じた疑問が徐々に解消されるとともに，全体像を把握することができました．

講演会では，開発した教育システムを普及するためのウェブサイトデザインに焦点をあて，デザインに精通し教育システム開発等の実績がある丸山美紀先生をお招きしてご講演とワークショップを行っていただきました．

各章の概要発表に用いたスライドは SIG-ID の Web サイト（ https://sites.google.com/view/jset-sig-id ）にて公開しております．今後の SIG-ID のイベント情報もありますので，ぜひご覧ください．

文責：石川奈保子（北海道大学）

SIG-ML　メディア・リテラシー，メディア教育

研究会『メディア・リテラシー育成に関する放送局の取り組み』開催案内

これまで，さまざまな放送局において，メディア・リテラシーを育む活動が行われてきましたが，どのような取り組みが行われているのか相互に共有する機会は限られていました．そうした状況を受けて BPO（放送倫理・番組向上機構）の青少年委員会は，2019-2021 年度に「青少年のメディア・リテラシー育成に関する放送局の取り組みに対する調査研究」を行い，報告書を公開しました（ https://www.bpo.gr.jp/?p=11369 ）．そうした取り組みを踏まえ，本 SIG では，放送局で教育プログラムの運営を担っている方をお招きして，実際に教育プログラムを一部体験しつつ，これまでの実践報告を伺い，これからの実践や研究のあり方を考える研究会を開催することとしました．この研究会は日本教育工学会の会員でなくても参加可能です．メディア・リテラシーやメディア教育に関心のある研究者や大学生・大学院生だけでなく，小学校・中学校・高校でメディア・リテラシー教育に取り組もうとしている（取り組んでいる）教員の方々もぜひご参加ください．詳細・プログラムは以下の通りです．

日時：2022 年 12 月 11 日（日）13:00～16:00（受付 12:45～）　場所：オンライン開催
参加費：無料　参加申込み：12 月 09 日（金）までに以下の URL からお申し込みください．

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdC2_mqWtSgvjMvuEWkVzlap6J9Q0wTKpPa02WzDzNbspZYrQ/viewform

プログラム：
・BPO 青少年委員会「青少年のメディア・リテラシー育成に関する放送局の取り組みに対する調査研究」概要報告　中橋雄（日本大学）
・模擬講座・実践報告 1 「情報の海の泳ぎ方」　林恭子（日本テレビ放送網株式会社）
・模擬講座・実践報告 2 「つながる！NHK メディア・リテラシー教室」　大橋拓（日本放送協会）
・総合討論　今後の展開

文責：中橋雄（日本大学）

SIG-TL　教師教育・実践研究

研究会『教師教育者の専門性開発と教師教育者研究を考える』開催案内

学校教育を取り巻く環境が急速に変化を遂げる中，子ども一人ひとりの学びを最大限に引き出す教育活動を実現するとともに，そのような教育活動を直接的に担う教師をいかに育むかが重要な課題になっています．そして，その鍵を握るのが教師教育を担う教師教育者（Teacher Educator）の資質・能力をいかに向上するかです．教師教育者については，諸外国では 1990 年頃から，わが国では 2010 年頃から注目を集めてきています．徐々に研究が蓄積され，また教師教育者養成のための仕組みを構築しようとする動きもあり，少しずつ教師教育者という用語が定着しつつあります．

SIG-TL では，先進的に取り組んでいる広島大学の岩田准教授よりお話を伺い，今後の教師教育者研究の推進につなげていきたいと考え研究会を企画しました．

日時：2022 年 12 月 13 日（火）16:30～18:30
方法：対面 and オンライン
参加費：無料
対面：広島大学　教育ビジョン研究センター（ https://evri.hiroshima-u.ac.jp/ ）

プログラム：
16:30～16:40　SIG-TL および研究会の趣旨説明　坂本将暢（名古屋大学）
16:40～18:00　ワークショップ＋講演　岩田昌太郎（広島大学）
(1)【WS】教師教育者の仕事とアイデンティティの特徴を探る
(2)【講演】教師教育者の研究動向から日本の教師教育者の専門性開発を探究する
18:00～18:30　ディスカッション
指定討論　姫野完治（北海道教育大学）　コーディネータ：谷塚光典（信州大学）

申込：準備のため，12 月 09 日（金）までに以下からお申し込みください．
https://forms.gle/ph4Lg3SrxfuecGMs8

文責：姫野完治（北海道教育大学）

SIG-CL　協調学習・学習科学

『LS Japan Research Meeting 2023』開催のお知らせ

SIG-CL「協調学習・学習科学」では，定期的にオンライン・オフラインの研究会や，講師をお呼びしてのセミナーを開催していますが，学習科学の研究や学習科学に基づく教育実践はますます注目されてきています．そこで今後，SIG-CL では「協調学習・学習科学」に関心をもつ学会員の皆様の研究力向上を目指して，年 1 回程度，学会員の皆様が発表できる「LS Japan Research Meeting」という研究会を実施しようと考えています．今回は，2020 年 3 月以来の久しぶりの開催です．

今回の研究会では，海外の学習科学者を招いての「キーノートセッション」と，発表者のご研究を議論する「ディスカッションセッション」からなる 1 日のプログラムを企画しています．「ディスカッションセッション」では，ディスカッションの時間を比較的長くとって，協調学習・学習科学・CSCL の研究としてよりよいものにするために，どのようにしたらよいか，ということについて，参加者同士で議論します．このご発表は，JSET 研究会・全国大会などで既に発表したものや，今後発表する内容でも構いません．詳細は未定ですが，海外からの参加者（キーノートスピーカー等）と一緒に議論できる「英語セッション」も設ける予定です．皆様のご参加のご検討をお待ちしております．

申込締切までは時間がまだありますので，本研究会の企画詳細は，SIG ページ（https://www.jset.gr.jp/sig/sig-cl/）および LS Japan 情報共有サイト（https://sites.google.com/view/jsetsig06）でお知らせして参ります．

日時：2023 年 03 月 18 日（土）10:00～17:00（予定）
場所：専修大学　神田キャンパス（〒101-8425　東京都千代田区神田神保町 3-8）
参加費：未定（ランチ代など，後日お知らせ致します）
発表申し込み締め切り：2023 年 02 月 18 日（土）（予定）　※定員になり次第募集を締め切ります．
参加申し込み（ランチ付き）締め切り：2023 年 03 月 10 日（金）23:59（予定）
申し込み方法：追って上記 Web サイトで告知致します．

文責：望月俊男（専修大）

最近の論文投稿数と採択率

本学会の論文誌，英文誌に投稿されました論文の数と採択率を以下に示します．ただし，2020 年は 04 月～03 月，2021 年は 2021 年 04 月から 12 月，2022 年は 2022 年 01 月から 09 月に投稿された数となります．

編集長　山内祐平

論文誌（特集号以外）

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	(査読中)	採択率(%)
2020 年度（04 月～03 月	論文	40	16	20	4		40
	教育システム開発論文	4	1	3			25
	教育実践研究論文	28	11	14	3		39
	資料	33	12	18	3		36
	寄書	2	1	1			50
2021 年（04 月～12 月）	論文	32	17	8	7		53
	教育システム開発論文	3	2	1			67
	教育実践研究論文	27	13	13	1		48
	資料	11	3	8			27
	寄書	2	1	1			50
2022 年（01 月～09 月）	論文	22	2	9	1	(10)	17
	教育システム開発論文	5	1	3		(1)	25
	教育実践研究論文	34	7	9	2	(16)	39
	資料	20	3	7	1	(9)	27
	寄書	1		1			0

論文誌（特集号）

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	(査読中)	採択率(%)
2020 年度	論文	2			2		0
	教育システム開発論文	3		1	2		0
	教育実践研究論文	14	1	7	6		7
	資料	5	3	1	1		60
	寄書	2	2				100
	巻頭言・総説・展望	3	3				100
2021 年	論文	3	1	2			33
	教育システム開発論文	3		3			0
	教育実践研究論文	4	3	1	1		75
	資料	7	3	3			43
	巻頭言・総説・展望	4	4		2		100
2022 年	論文	7	3	1		(1)	50
	教育システム開発論文	1		1	1		0
	教育実践研究論文	8	2	5	1		25
	資料	5	2	2			40
	巻頭言・総説・展望	3	3				100

論文誌（ｼｮｰﾄﾚﾀｰ）

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	(査読中)	採択率(%)
2020 年度	ショート	124	53	58	13		43
2021 年	ショート	113	59	43	11		52
2022 年	ショート	106	49	44	8	(5)	49

英文誌

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	(査読中)	採択率(%)
2020 年度（04 月～03 月）	Translation	13	12	1			92
2021 年度（04 月～12 月）	Translation	8	7	1			88
2022 年（01 月～09 月）	Translation	6	5			(1)	100

学会ホームページのリニューアルについて

広報委員会

2022 年 09 月に学会ホームページをリニューアルしました．高速化・安定化が確保され，40 以上の機能やコンテンツが追加されました．

研究会の受付開始や論文募集などの学会の最新情報は，Facebook や Twitter で受け取ることができます．学会 SNS にご登録のうえ，積極的な活用をお願い申し上げます．

Facebook　@jset.kouhou.update

Twitter　@JSETkoho_update

登録状況（2022 年 10 月 31 日現在）　Facebook 95 人，Twitter 184 人

文責　登本洋子（東京学芸大学）

一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 16 回理事会報告

日時：2022 年 06 月 21 日（火）～06 月 27 日（月）
場所：電子メールによる
出席：理事　　堀田龍也会長，美馬のゆり副会長，村上正行副会長，室田真男副会長，山内祐平副会長，赤倉貴子，岩﨑千晶，大久保昇，緒方広明，小柳和喜雄，北澤武，向後千春，重田勝介，瀬戸崎典夫，高橋純，永田智子，西森年寿，根本淳子，姫野完治，益子典文，益川弘如，松河秀哉，望月俊男，森田裕介，森本康彦
　　監事　　鈴木克明，吉崎静夫
　　総務委員会　池尻良平，伏木田稚子，長濱澄

（合計 30 名）

1．前回の理事会等議事録の承認について
第 19 期第 15 回理事会議事録について原案が提示され，承認した．

2．新入会員の承認について
会員の移動状況について報告があり，承認した．2022 年 06 月 24 日現在の総会員数は 3,388 名となった．

3．各種委員会から
＜協議題＞
(1) 研究会委員会
委員交代について提案があり，承認した．
＜報告＞
(2) 編集委員会
学会誌の発行スケジュールの報告があった．
(3) 広報委員会
ニューズレター254 号の編集スケジュールの報告があった．
(4) 総務委員会
その他
・令和５年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞，若手科学者賞，研究支援賞）受賞候補者の推薦について

4．今後の理事会日程
第 19 期第 17 回以降の理事会日程を確認した．

一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 17 回理事会報告

日時：　2022 年 07 月 16 日（土）14:40～16:00
場所：　「JAPET&CEC 会議室」と「遠隔会議システム（Zoom）」
出席：理事　堀田龍也会長，村上正行副会長，室田真男副会長(遠隔)，山内祐平副会長，赤倉貴子（遠隔），岩﨑千晶（遠隔），緒方広明（遠隔），小柳和喜雄（遠隔），瀬戸崎典夫（遠隔），永田智子（遠隔），西森年寿（遠隔），根本淳子（遠隔），益子典文，益川弘如（遠隔），松河秀哉（遠隔），望月俊男（遠隔），森田裕介（遠隔），森本康彦（遠隔）
監事　鈴木克明（遠隔），吉崎静夫（遠隔）
総務委員会　池尻良平，長濱澄

（合計 22 名）

議題１　前回の理事会等議事録の承認について
一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 16 回理事会議事録について報告があり，承認した．

議題２　新入会員の承認について
会員の移動状況が報告され，承認した．2022 年 07 月 16 日現在の総会員数は 3,441 名となった．

各種委員会から
議題３　（編集）
・編集委員会
論文誌編集進捗状況ならびに論文誌発行スケジュール，次回特集号のテーマ，ITEL の編集進捗状況が報告された．著作権規程（案）について提案があり，承認した．

議題４　（戦略・国際）
・企画戦略国際委員会
AECT International Convention での JSET 枠における発表者について報告があった．
・企画戦略 WG
日本教育工学会会員サービス向上と国際化に向けた意識調査の結果について報告があった．

議題５　（会員サービス）
・大会企画委員会
2022 年春季全国大会に関する収支，2022 年秋季大会の会場を含めた運営の準備状況やコロナ感染症拡大を受けての対応，2022 年秋季大会の予算見込みについて報告があった．2022 年秋季大会のシンポジウムの公開範囲について提案があり，承認した．
・研究会委員会
07 月研究会（信州大）が対面に加えオンライン配信で開催されたこと，10 月研究会（関西学院大）の開催予定について報告があった．

議題６　（総務・広報・選挙管理）
・広報委員会
ニューズレターの発行進捗，HP の改修に合わせて会員専用データベースを改修していることについて報告があった．
・顕彰委員会
第 36 回論文賞の選考結果，第 37 回研究奨励賞の選考結果について提案があり，承認した．
・選挙管理委員会
予備投票の選挙結果のリストについて提案があり，承認した．
・総務委員会

事務局の移転先や移転に関するスケジュールについて報告があった．次回理事会のハイブリッド開催（対面会場はJAPET&CEC）を承認した．

その他
（1）協賛依頼について，承認した．
（2）郵送物について，確認した．
（3）今後の理事会日程を確認した．

一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 18 回理事会報告

日時：2022 年 08 月 23 日（火）～09 月 02 日（金）
場所：電子メールによる
出席：理事　　堀田龍也会長，美馬のゆり副会長，村上正行副会長，室田真男副会長，山内祐平副会長，赤倉貴子，岩﨑千晶，大久保昇，緒方広明，小柳和喜雄，北澤武，向後千春，重田勝介，瀬戸崎典夫，高橋純，永田智子，西森年寿，根本淳子，姫野完治，益子典文，益川弘如，松河秀哉，望月俊男，森田裕介，森本康彦
　　監事　　鈴木克明，吉崎静夫
　　総務委員会　池尻良平，伏木田稚子，長濱澄

（合計 30 名）

1．前回の理事会等議事録の承認について
第 19 期第 17 回理事会議事録について原案が提示され，承認した．

2．新入会員の承認について
会員の移動状況について報告があり，承認した．2022 年 08 月 26 日現在の総会員数は 3,443 名となった．

3．各種委員会から
＜報告＞
（1）編集委員会
学会誌の発行スケジュールの報告があった．

4．今後の理事会日程
第 19 期第 19 回以降の理事会日程を確認した．

一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 19 回理事会報告

日時：　2022 年 09 月 09 日（金）17:00～17:35
場所：　「JAPET&CEC 会議室」と「遠隔会議システム（Zoom）」
出席：理事　堀田龍也会長，美馬のゆり副会長，村上正行副会長（遠隔），室田真男副会長，山内祐平副会長(遠隔)，赤倉貴子(遠隔)，岩﨑千晶（遠隔），大久保昇（遠隔），小柳和喜雄（遠隔），瀬戸崎典夫（遠隔），高橋純，永田智子（遠隔），西森年寿（遠隔），根本淳子（遠隔），姫野完治，益子典文，益川弘如（遠隔），松河秀哉（遠隔），望月俊男（遠隔），森田裕介（遠隔），森本康彦（遠隔）
監事　吉崎静夫（遠隔）
総務委員会　池尻良平（遠隔），伏木田稚子（遠隔），長濱澄（遠隔）
（合計 25 名）

議題１　前回の理事会等議事録の承認について
一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 18 回理事会議事録について報告があり，承認した．

議題２　新入会員の承認について
会員の移動状況が報告され，承認した．2022 年 09 月 09 日現在の総会員数は 3,450 名となった．

各種委員会から
議題３　（編集）
・編集委員会
論文誌編集進捗状況ならびに論文誌発行スケジュール，47 巻 4 号の特集号，ITEL の編集進捗状況が報告された．

議題４　（戦略・国際))
・企画戦略 WG
企画戦略 WG のメンバー追加について提案があり，承認した．

議題５　（会員サービス）
・大会企画委員会
秋季全国大会の委員追加について提案があり，承認した．
秋季全国大会の参加者の状況について報告があった．

議題６　（総務・広報・選挙管理）
・広報委員会
学会公式 WEB サイトサーバーは，これまで会員サービス用サーバー上で稼働していたが，このたび独立サーバーを稼働させ，学会公式 WEB サイトの CMS，コンテンツを移転したことについて報告があった．
学会の WEB ページに関する機能追加が完了したことについて報告があった．
ニューズレター廃止に向けた機能追加のスケジュールについて報告があった．
・顕彰委員会
2022 年秋季全国大会の研究奨励賞の推薦について依頼があった．
・選挙管理委員会
理事候補，代議員候補が決まったことについて報告があった．
選挙のスケジュールについて報告があった．
・総務委員会
公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団調査研究並びに助成研究の募集（公益財団法人中山隼雄技術文化財団　より）について報告があった．

事務局の移転について提案があり，承認した．

その他
（1）協賛依頼について，２件を承認した．
（2）郵送物について，確認した．
（3）今後の理事会日程を確認した．

2023 年会費納入のお願い

2023 年会費の，納入をお願いいたします．

日本教育工学会では，一般社団法人化された際に，会計年は 01 月 01 日から 12 月 31 日までになりました．各会員種別の年会費は右記のとおりです．クレジットカード支払い，郵便局からの払込み，または，会費請求書内面のコンビニエンスストア払込票により年会費をご送金くださるようお願いいたします．コンビニ決済以外での支払い方法については学会公式 Web ページ：

https://www.jset.gr.jp/fee-payment/

で確認下さい．

年会費は，12 月 31 日までに納入をお願いいたします．

本学会では，年会費を納入した会員のみに論文誌を発送しています．過去の年度会費未納の会員が会費を送金された場合には後日まとめて発送します．

◆会員種別と 2023 年の年会費（01 月～12 月）

会員種別	年会費	入会金
正会員	9,000 円	1,000 円
准会員	5,500 円	
学生会員	5,500 円	
維持会員	50,000 円/口	
名誉会員	免除	-

◆学生会員について

- 学生会員は正規の入学者で，研究生は該当しません．
- 学生会員の所属機関は，必ず大学名となります．所属機関が大学以外の場合には，正会員または准会員となります．
- 学生会員は，資格条件（大学名，学部名／研究科名，指導教員名，卒業見込／修了見込の年月）を必ず連絡してください．
- 学生会員として資格条件をご連絡いただかないで，年会費を納入された方は，とりあえず准会員に変更させていただいております．

2023「研究会参加年間パス」会費（年額 2,000 円）納入について

本学会では，研究会を 4 回開催しています．2021 年より，研究報告集は J-Stage に登録され，オープンアクセス可能になりました．それに伴い，2020 年までの研究報告集代や年間購読制度は廃止しています．一方，報告集を電子化するための費用等を踏まえ，以下の様に「参加費」と「発表料」という形で料金を設定いたします．

（ア）参加費（いずれかが必要）

（a）1,000 円/ 1 回（会員・非会員共通）

（b）2,000 円/年間 4 回「研究会参加年間パス」制度（会員のみ）

（2000 円で当該年内の 4 回の研究会のすべてに出席することができます．
ただし，会計年頭のみの受付とします．2023 年の納入締切は 04 月 30 日（日）です．）

（イ）発表料（参加費に加え，口頭発表者は以下の料金を支払う）

（a）1,000 円/ 1 回（会員）

（b）2,000 円/ 1 回（非会員）

今回，**「研究会参加年間パス」の会費納入**のご案内をいたします．会計年頭のみの受付になりますので，ご注意下さい．2023 年の納入締切は 04 月 30 日（日）です．クレジットカード支払い，郵便局からの払込み，または，同封のコンビニエンスストア払込票により送金下さいますようお願いいたします．

新入会員（2022 年 07 月 06 日～2022 年 08 月 09 日）

入会申込者　17 名（正会員：12 名，准会員：１名，学生会員：４名）

正会員（12 名）
阿部淳一郎(株式会社ラーニング
　エンタテイメント)
野口太輔(中村学園大学)
小宮全(東京交通短期大学)
奥村和則(岐阜市立女子短期大学)
中里彰吾(札幌市立中央小学校)
濱崎あゆみ(株式会社アイエスアイ)
中嶋瑞希(株式会社 COMAPSS)
濵野礼奈(新潟医療福祉大学)
浅井由剛(学校法人瓜生山学園
京都芸術大学)
中島さち子(東京理科大学)
森晶子(東京大学)
冨永慎一(株式会社 NHK
　エンタープライズ)

准会員（１名）
鈴木俊典(横浜女学院中学校高等
学校)

学生会員（４名）
中條麟太郎(東京大学)
松岡亮輔(大阪教育大学)
阿部由香梨(京都大学大学院)
木村雅代(神戸情報大学院大学)

以上

新入会員（2022 年 08 月 10 日～2022 年 09 月 01 日）

入会申込者　５名（正会員：３名，学生会員：２名）

正会員（３名）
阿部恭子(石川県立金沢北陵高等
学校)
高見享佑(京都大学)
金京淑(秋田大学)

学生会員（２名）
菊池ゆみこ(東京大学大学院)
佐藤雄一郎(慶應義塾大学大学院)

以上

会員の移動状況（2022 年 09 月 02 日～2022 年 10 月 04 日）

入会申込者　19 名（正会員：12 名，准会員：１名，学生会員：６名）

正会員（12 名）
齊藤勝(帝京平成大学)
竹内一(徳島文理大学)
岩間徳兼(北海道大学)
須栗裕樹(宮城大学)
鄭漢模(三重大学)
西村勇(宮崎公立大学)
菅原幸利苗(秋田県立大学/熊本
　大学大学院)
五十嵐弥生(日野市立豊田小学校)
赤井秀行(九州ルーテル学院大学)
力丸由起子(久留米大学)
成瀬啓(栗原市立一迫小学校,)
福田博人(岡山理科大学)

准会員（１名）
松久弥生(学校法人先端教育機構)

学生会員（６名）
中村航平(京都大学大学院)
福島広大(東京大学大学院)
青木留理(関西大学)
村浦新之助(東京学芸大学大学院)
田中友理(大阪教育大学大学院)
小林真緒子(津田塾大学)

以上

◎学会日誌

２０２２年１２月～２０２３年０３月

・ 2022 年 12 月 03 日（土）研究会「高等教育における学習支援／一般」（鹿児島女子短期大学　※発表者は鹿児島女子短期大学で発表）
・ 2023 年 03 月 25 日(土) ～ 03 月 26 日(日) ＜全国大会＞ 2023 年春季全国大会（東京学芸大学　※状況によりオンライン開催の可能性あり）

◎国際会議の案内

２０２２年１１月～２０２３年０３月

・ICCE 2022
https://icce2022.apsce.net/
(2022, 11/28 – 12/02, Kuala Lumpur, Malaysia/Online)

・TALE 2022
https://www.tale2022.org/
(2022, 12/04 – 07, The Hong Kong Polytechnic University/Online)

・SITE 2023
https://site.aace.org/conf/
(2023, 03/13 – 03/17, New Orleans, Louisiana, USA)

お問い合わせ先

学会についてのお問い合わせは，
下記のWebフォームから
お願いいたします．

https://www.jset.gr.jp/contact/

広報委員会

担当副会長　：室田 真男（東京工業大学）
広報委員長　：高橋 純（東京学芸大学）
広報副委員長：光原 弘幸（徳島大学）
幹事：深見 俊崇（島根大学）
幹事：脇本 健弘（横浜国立大学）
委員：佐藤 和紀（信州大学）
島田 希（大阪公立大学）
中村 恵（幾央大学）
登本 洋子（東京学芸大学）

E-mail：kouhou@jset.gr.jp

発行所●
一般社団法人日本教育工学会事務局
〒107-0052
東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル8階
TEL 03-5549-2263
FAX 03-5575-5366
E-mail：office@jset.gr.jp
https://www.jset.gr.jp
郵便振替00160-4-452130

日本教育工学会ニューズレター
No. 256
2022 年 11 月 21 日

発行人●会長 堀田 龍也（東北大学）